

擬態語の研究

楊淑雲

應用日語學系

人文社會學院

yoshukuun@chu.edu.tw

摘要

現代日本語における擬態語は文の中で非必須成分として見られるのが一般的である。しかし、実際には擬態語が動詞として機能することがある。また、副詞として機能することもあるが、だとしてもその語彙的意味が文のほかの成分にもたらす影響は少なくないと言える。すなわち、擬態語が文中でどのような成分として振舞うか、他の成分とどのような関わりがあるかについていずれも擬態語の語彙的意味と深く関わっていると考える。そこで、本研究は、現代日本語における擬態語の文法的特徴を分析することによって擬態語の有する意味的特徴を究明することを目的とする。なお、現代日本語における擬態語の研究に関して、音声心理学的な研究、対照言語学的な研究、語彙論・語構成論的な研究、文体論的な研究など、様々な面からの研究が行なわれているが、本研究は、擬態語の語彙的意味について形態的・構文的・意味的な観点から論じた。要するに、擬態語の形態的特徴および統語的特徴を考察することによって擬態語の有する意味的特徴を究明し、擬態語の意味特性のあり方がそのことによって明確になるのである。このように、新しい視点で論述を展開することは従来の研究と比べ、本研究の有する意義になると言えよう。

關鍵字：擬態語 動詞化 修飾用法 統語的特徴 形態的特徴